

3	施政方針と予算
14	みとよHOT ほっとNEWS(ホットニュース)
16	M's Information みとよくらしのおしらせ① 市役所の組織の一部変更 / 固定資産評価審査委員会委員の選任 / 女性消防団員募集 / 税のお知らせ
18	特集 知っていますか?認知症のこと
25	春のイベント
26	M's Information みとよくらしのおしらせ② 国保人間ドック / 高齢者用肺炎球菌ワクチン予防接種 / 行政改革推進委員会委員募集 / 国民年金 / 金属ごみ・有害ごみの収集
28	子ども・子育て支援新制度がスタート 保育所・幼稚園等を利用する皆さんへ
30	M's Information みとよくらしのおしらせ③ 高齢者福祉タクシー事業 / 長寿手帳 / 生活困窮者支援制度 / 浄化槽清掃業者の許可区域 / 未利用地の情報提供 / 県後期高齢者医療広域連合からのお知らせ / 国保税、後期高齢者医療保険料、介護保険料の仮徴収 / 文書館からのお知らせ / 窓口封筒広告募集 / 鳥獣被害防止対策補助金 / 耕作放棄地再生利用対策補助金
33	M's 深読みひろば 男女共同参画 / 定住
34	4月のお知らせ 募集 / 相談 / 講座・教室 / イベント / 納税のお知らせ / マリンウェブ情報 / 国際交流協会
37	保健・相談
38	ここ笑み通信 ～子育てするなら三豊が一番!～ 絵本 de 親子コミュニケーション / 日常生活用具給付 / 不妊治療費助成事業 / 遺児年金支給事業 / M's Smile ふおとぎやらしい / 乳幼児健診 など
40	みとよ写真帳 / 編集後記

さらなる飛躍 未来への希望



第1回市議会定例会の初日となった3月2日、横山市長が平成27年度の施政方針を力強く訴えました。

三豊市が発足して10年目。第2ステージ「次なる10年」の第一歩を踏み出す平成27年度一般会計当初予算の計上額は、過去最大規模となる358億9千万円。

さらなる発展を目指すための重点施策をはじめ、本年度の取り組みを予算とともに10ページにわたって紹介します。

平成27年度 施政方針と予算

三豊市の花

ま〜がれつと通信

三豊市を マーガレットでいっぱいにしよう

市の花マーガレットは、キク科の多年草。白やピンクの愛らしい姿は見る人の心を和ませ、優しい気持ちにしてくれます。

そんなマーガレットの育て方は…

植え付け 3～5月

開花 5～7月、10～11月

路地でも鉢植えでもOK! 1年を通して日当たりの良い場所で育てましょう。高温多湿に弱いので、真夏は直射日光が当たらない所、また、寒さにも弱いので、冬は霜が降りない所が良いでしょう。土の表面が乾いたら水やりをしてください。

4月12日(日)の紫雲山桜まつりでマーガレットの苗がもらえます。この機会に、ぜひ、あなたもマーガレットを育ててみませんか。

(桜まつりの詳細は25ページをご覧ください)

三豊市の人口 ※平成27年3月1日現在 ()内は前月比

世帯数 23,283 世帯(+7) 総人口 65,846 人(-51) 男 31,330 人(-29) 女 34,516 人(-22) ※香川県人口移動調査による

表紙 今月の市民力



平成24年11月に設立された「大道ふれあいサロン♡コスモス」。一人暮らしや話し相手の少ないお年寄りが孤立しないよう、毎月第1金曜日、自治会場が集まり、ゲームや手芸、軽い体操、絵本の読み聞かせなどを行っています。また、毎年夏まつりには地域の子どもたちも参加し、流しそうめんをしたり花火を楽しんだりしています。

「近隣の自治会にはサロンがありませんでしたが、大道自治会にはなかったため、地域のお年寄りの中から『うちにもほしい』という声があがったんです。そこで、私たちがお手伝いをしています」と笑顔で話してくれたのは島田節子さん、島田玲子さん、嶋田妙子さんの3人。地域の人が気軽に集まって触れ合うことで、生きがいづくりや仲間づくりの輪が広がり、認知症の予防にもつながると思っています。

「いつも楽しみにしているよって言われると、励みになります。あまりがんばり過ぎず、みんなの支えになれるよう、私たちも楽しみながら続けていきたいです」。

笑顔のパワーが、地域のお年寄りを元気にしています。

強く やさしく 楽しい

田園都市みとよ

迎

える平成27年度、三豊市は平成28年1月1日に合併・市制施行満10年を迎えます。この間における市民の皆さんのご協力に心から感謝申し上げます。

いよいよ平成28年度からは普通交付税の合併算定替特例措置の段階的縮減が始まります。また、人口の減少と少子・高齢化によって、これまで地域で当たり前に行われてきたことが今までどおりでなくなる時代が到来しつつあります。こうした地域社会の存立にもかかわる問題に直面しながら、新年度は第2ステージ「次なる10年」の第一歩を踏み出す年でもあります。

市民の皆さんとともに「強く やさしく 楽しい 田園都市みとよ」を旗印に、心豊かなまちづくりを精力的に、スピード感を持っ

て進めてまいります。

そのために、三豊市新総合計画で示した6つの基本目標に基づいて施策を展開するとともに、今、本市が直面している課題を成長動機として捉え、それら乗り越えるための成長戦略を今年度の重点プロジェクトとして進めてまいります。

- ① 危機管理体制の強化
- ② 地域資源を活かした産業の振興と知名度向上
- ③ 循環型環境都市づくり
- ④ 健康寿命延伸のための「先手の福祉」の充実
- ⑤ 支えあう心豊かな人を育むまちづくり
- ⑥ 次なる行財政改革と「新たな公共サービス」の推進

本市の財政状況は、目前に迫っている普通交付税の合併算定替終了に伴う一般財源の減少と、平成26年度からの大型建設事業の実施に伴う財政負担や公共施設の再配置問題などを考慮すると、中長期的には厳しい状況が見込まれます。

将来世代に負担を先送りしないためにさらなる行財政改革を進め、最少の経費で最大の行政効果が得られる予算づくりに取り組んでまいります。

このような基本的方針のもとに編成した平成27年度一般会計当初予算は、歳入歳出358億9千万円とするものであり、新総合計画に示す6つの基本目標ごとに、その概要をご説明申し上げます。

1

活気にあふれ 産業が躍動するまち

（産業・雇用）

国が進めるTPPへの参加をはじめ、近年の農業を取り巻く環境は大転換期を迎えようとしています。

本市においては、三豊市農業振興計画に基づき、担い手の育成・確保、生産基盤の整備、耕作放棄

地対策、鳥獣被害対策を進めてまいります。また、集落や農地の多面的機能の確保、環境保全および農業用施設の長寿命化に対し、農業者が主体的に取り組む活動を支援します。

さらに、若い農業者のネットワークづくりや6次産業化、農商工連携を推進し、三豊ブランドとしての本市農産物の販路拡大と商品開発を積極的に支援します。

次に商工振興については、企業立地優遇措置や事業所間の交流・

主な新規事業・重点施策

◆空き家バンク・地域経済活性化事業 補助金 3,000 万円

市内の空き家問題の解消を図るため、空き家情報の発信と空き家のリフォーム補助を行います。

◆多面的機能支払事業 2 億 646 万 9 千円

農地や農業用施設を守る共同活動に対して、維持管理活動に対する支援を行います。

◆企業立地促進奨励金 3,630 万円

本市に製造業施設などを設置する企業を支援することにより、産業の振興および雇用機会の拡大を図ります。

情報交換機会の充実を図り、新たなビジネスマッチングを創造するとともに、新産業の創出のため産学連携を支援します。



▲採れたて野菜や加工品が並ぶ販売イベントも多数開催。農業の新しいカタチが次々と生まれています

若い世代の視点や発想も取り入れながら学術機関と連携して、産業振興基本計画がより有効な成果が出るよう、地域政策の調査研究に取り組みます。

観光振興については、「食と癒し」に着目して市内の観光資源を発掘し、三豊市観光協会をはじめとするさまざまな団体と協力して、三豊市への観光客の誘致等を図ります。また、地域の住民自らが創造し実施する活性化事業の支援も行います。

瀬戸内国際芸術祭2016が栗島で開催予定ですが、栗島周辺のみならず庄内半島をはじめ市内への誘客を図ります。

また、「アートを取り入れた楽しく新しいまちづくり」を引き続き展開し、瀬戸芸2016を市内外にPRしてまいります。

このほか、関東・関西の「三豊市ふるさと会」やクルージングサミットをはじめ都市間ネットワークの拡充に努めつつ、生産者と一緒に作ったトップセールスを行い、市内生産物の販路拡大や知名度向上を推進します。

また、ふるさと納税による本市への寄附の促進を図り、併せて地元特産品等のPRを行います。

若者の住宅取得時の支援は、大きな効果が出ていますので、平成27年度も継続します。

また、市内の指定宿泊施設を利用し本市への移住を検討する方や、各種活動を行う学生団体に報償金を交付します。

さらに、今不足している空き家の貸し手や売り手の拡大に努め、空き家バンクとあわせて、市内有力企業と連携し、仕事の紹介も行うシステムを新しく構築して、移住増加にはさらに力を注入します。



▶市民誰もが参加でき、観光を考える新たな組織が発足します。市民主体の観光振興が活発化しています。

2 豊かな自然と共生し 環境にやさしいまち

（環境・生活）

本市は、四国で唯一のバイオマス産業都市の指定を受けました。バイオマスの利活用による産業都市、循環型環境都市の実現に向けた取り組みを進めます。

すでに実施しているダンボールコンポストによるごみの発生抑制や18分別の徹底によるごみの資源化をはじめ、民設民営のトンネルコンポスト方式による「バイオマス資源化センターみとよ」の稼働も具体化してまいりました。

また、レジ袋を削減するための「日比野克彦」氏デザインによるエコバッグの利用促進も進めます。このような取り組みの中において、「バイオマス資源化センターみとよ」が平成28年度中に稼働した場合には、資源化処理率が95・3%まで上がるものと推定されています。

今後は、三豊市を全国に発信するアイテムの一つとして「ごみの



▲レジ袋の削減を目指して、日比野克彦氏デザインによるエコバッグの利用促進を図ります

資源化処理率日本一」を目標に掲げ、「三豊市」イコール「環境にやさしいまち」を全国に発信してまいります。

竹の資源化に関しては、産学官で継続して共同研究開発に取り組めます。

3 人々が助け合う 安全・安心なまち

（安全・安心）

新火葬場については、南部火葬場の施設整備完了を目指し、同時に、北部火葬場の基本設計に取り組みます。

道路・橋梁に関しては、市道網の整備を計画的かつ効率的に推進するとともに、適正管理と維持修繕に努めます。

水道事業については、施設の適切な修繕・更新を行うとともに、施設の耐震化、浄水場施設の改築および水道の中央監視システムの導入を図り、安全で良質な水道水の供給に努めます。

近年の地球温暖化に伴う異常気象、また、南海トラフを震源とする大規模地震の発生予想を踏まえ、危機管理体制の強化が求められています。

まず、災害発生時に速やかな初動体制の確保と情報収集・指揮系統の一元化により被害の最小化を図るため、危機管理センターを整備し、併せて危機管理課を新設します。

また、自治会・小学校区単位での自主防災組織の組織化を促し、



▲各地で住民参加の防災訓練を開催。防災への意識が高まっています

資機材等の整備を計画的に進め、併せて、民間事業者と防災協定の締結を推進します。

また、地域の防災リーダーを育成するため、防災士養成講座を実施し、自主防災組織との連携強化を図ります。



▲平成28年1月から供用開始予定の危機管理センター。市民の生命と財産を守る防災拠点として災害対策機能の強化を図ります

主な新規事業・重点施策

◆市地域防災計画作成業務 500万円

◆自主防災会補助金 400万円
市地域防災計画を改訂するとともに、自主防災組織を育成強化し、地域防災力の向上を図ります。

主な新規事業・重点施策

◆火葬場建設事業 6億4,929万1千円
老朽化した施設を統合し維持管理経費などを削減するため、平成27年11月稼働に向け南部火葬場建設工事を行います。

◆環境フェスタの開催・レジ袋の削減事業 5,375千円
環境意識の向上を目的とする環境フェスタの開催およびレジ袋の削減を図るためのキャンペーンやエコバッグの作成を行います。

人々が支えあい
健康でいきいきと
暮らせるまち

（医療・健康・福祉）

幸せな超高齢社会実現のため、
健康寿命に一層の価値観を置き、

生活習慣の改善、予防重視の保健
事業・健康づくり施策等、「先手
の福祉」の充実を
図ります。

主な新規事業・重点施策

◆**地域介護・福祉空間整備等施設整備事業** **3,902万5千円**
火災予防のため、介護施設のスプリンクラー整備に対
する補助を行います。

◆**高瀬南部保育所整備事業** **5,967万円**
老朽化した高瀬南部保育所の整備を行います。
平成27年度は造成工事、基本・実施設計等を行います。

◆**認知症初期集中支援推進事業** **187万5千円**
認知症予防のため、認知症専門医による早期診断、早
期対応を行うための体制づくりを行います。

市立病院・診療
所、三豊総合病院
の運営体制の強化
および相互の連携
強化を行い、地域
医療の充実を図り
ます。

高齢者福祉・介
護事業では、在宅
医療と介護の連携、
認知症対策も含め
た介護予防施策、
一人暮らし高齢者
等への生活支援サ
ービスなどの充実
に取り組み、高齢
者が住み慣れた地



▲「子育てするなら三豊が一番！」を掲げ、充実した子育て支援策を展開

域で楽しく生活できるよう、地域
包括ケアシステムの構築を目指し
ます。

子育て支援は、最重要施策とし
て取り組みます。

現在実施している妊娠期から切
れ目のないサービスを実施します。
中学校卒業年度までの子どもの
医療費は引き続き無料とします。
保育所事業では、高瀬南部保育
所の整備事業に着手します。また、

新たな取り組みとして、認可外保
育支援事業や養育支援訪問事業を
開始します。

母性ならびに乳幼児等の健康確
保のため、食育の推進、思春期保
健対策の充実を図ります。母子家
庭等のひとり親家庭や障がいのある
子どもへの支援、児童虐待の防
止および早期発見など、要保護児
童等へのきめ細やかな取り組みを
推進します。

障がい者福祉では、障がい者が
地域社会の一員として自立し、安
心して暮らせるよう、障がい者総
合支援法等に基づく各種施策を推
進します。

引き続き、臨時福祉給付金と子
育て世帯臨時特例給付金を交付い
たします。



▲認知症予防講演会の開催など
「先手の福祉」の充実を図ります

豊かな心を育み
文化を発信するまち

（教育・文化）

山本地区・財田地区新設小学校
建設事業、三野津中学校および託
間中学校建設事業、南部学校給食
センター建設事業を実施します。

小学校施設耐震化推進事業とし
て、屋内運動場の照明器具の落下
防止対策を行い、中学校施設耐震
化推進事業として、つり天井があ
る屋内運動場の落下防止対策を行
います。

ソフト面として、小中学校に一
人ひとりの障がいの程度・種類に

応じた特別支援教育支援員を配置
します。

文部科学省は平成32年度を目途
に小学校の英語教育の開始時期を
現行の5年生から3年生に引き下
げる方針です。

三豊市では、児童・生徒の、特
に「しゃべる」ということに着目
して、英語力の向上を図ってまい
ります。

特に、土曜日教育支援体制等構
築事業として、各地区で「使える



▲2地区で行われていた「使える英会話」
講座を全市で実施へ

英会話」講座を実施します。

生涯学習では、社会教育・社会
体育施設の非構造部材耐震調査に
着手します。

ソフト面として、「三豊市生涯
学習推進計画」が平成27年度に最
終年度を迎えることから、次期計
画を策定します。

また、紫雲出山遺跡を国指定文
化財の指定を受けるために、発掘
調査を行います。

主な新規事業・重点施策

- ◆**財田地区新設小学校建設事業** **16億2,890万3千円**
平成28年4月開校に向けて、財田地区新設小学校の建設工事などを行います。
- ◆**山本地区新設小学校建設事業** **18億1,472万7千円**
平成28年4月開校に向けて、山本地区新設小学校の建設工事などを行います。
- ◆**学校給食センター等整備事業** **10億1,367万1千円**
老朽化した学校給食センターなどの統合を行い、食の安全性の確保と効率化を図ります。
- ◆**土曜日教育支援体制等構築事業** **155万3千円**
市内全域の小学校4年生を対象として、「使える英会話」講座を開催します。

昭和20年の終戦から70年の歳月
が流れ、戦争の記憶の風化が懸念
されています。今、われわれがで
きないよう、先人が経験した史実
を学び語りついでいくことです。

終戦70周年の節目にあたり、史
実を学び平和を祈念するイベント
を行います。

ともに考え行動する 自らが創るまち

（人権・住民自治・行財政）

市制施行10年のこの記念すべき節目の年にあたり、昨年決まった市の花と木、マーガレットと桜を

市内外に発信し、マーガレットが絵柄の原動機付き自転車のオリジナルナンバープレート我希望者に交付いたします。

また、本市の姿

や歴史を発信するための資料として、市勢要覧・プロモーションビデオを作成します。

平成27年度は、社会保険・税番号制度の施行準備が本格化します。

10月以降、12桁の個人番号（マイナンバー）が市民の一人ひとりに通知され、希望者には申請により、平成28年1月から、個人番号カードを交



◀まちづくり推進隊をはじめ、市民主体の活動が活発化。市民力が三豊の大きなパワーに

付する予定です。この制度への取り組みを遅滞なく行い、スムーズな運用に努めてまいります。

地域内分権では、本市の新しい公共を担う核となる7つのまちづくり推進隊が、平成27年で活動4年目を迎え、それぞれが特徴的な自主事業を始めています。この流れを継続し、さらに市民力を発揮できるよう支援をしてまいります。

は市民が、民間事業者ができることは民間事業者が担う「新しい公共サービスがあふれるまち」に向けて、今後も前進してまいります。男女共同参画社会については、第2次三豊市男女共同参画プランに基づき、一層の取り組みを行います。

行財政改革では、普通交付税の合併算定替特例措置の縮減が開始されるに伴い、多大な影響が想定されています。

そのため、平成27年度に、第2次行政改革大綱を策定し、第1次行政改革が大きな成果をもたらしたように、徹底した行財政改革に取り組みます。

平成25年度に策定した「公共施設再配置計画」を進めるとともに、市役所の職員数も今後、削減していきます。

各支所については、今後、行政機能と公民館、社会福祉協議会、まちづくり推進隊、シルバー人材センターなどの事務所をできる限り1カ所に集約し、地域を支えるコミュニティ拠点としての「市民センター」化を目指します。

今後、公共施設等総合管理計画を定める中で、施設の維持管理や更新等を再度検討してまいります。

主な新規事業・重点施策

◆**本庁舎周辺整備事業** **11億4,901万9千円**
災害時の拠点施設の確保と行政機能の集約化のため、危機管理センターおよび耐震性貯水槽等を整備します。

◆**市勢要覧作成業務** **550万円**
本市の姿や歴史を発信するための資料として市勢要覧を作成します。

◆**合併10周年記念プロモーションビデオ作成** **276万5千円**
市制10周年を迎え、記念式典で放映するプロモーションビデオを作成します。

むすび

合併してからのこの10年間で、時代の潮流は、大きく変化し、日本全体が人口減少局面に突入するとともに、明治維新以来、継続してきた中央集権国家から地方分権国家へと大きく舵が切られ始めています。

しかしながら、平成12年に地方分権一括法が施行されて以降、その方向に向いてはいるものの、基礎自治体の合併による受け皿づくりのみが先行し、あとは停滞したままになっています。

私たちはそれを横目に見ながら時代を先に進めてまいります。

地方分権の延長線上には地域内分権があると考えますから、市民は自主自立、行政は企画力の拡充をさらに進めなければなりません。

「公共サービス」イコール「行政サービス」の時代は終わりました。

今後は、市民の皆さんや、

NPO・民間事業者ができる公共サービスは、積極的に開放していきます。経費が安価で、みんなが参加できる、それが地方分権時代の官民連携スタイルであり、新しい公共サービスのあり方です。

まちづくり推進隊がスタートして以降、本市においては、急速に自立した市民力が高まり、それを受けて他の団体でも活動が活発化し、全国的にもこの制度は注目の的となっています。

「新しい公共サービスがあふれるまち三豊」に向けて、今後も前進してまいります。

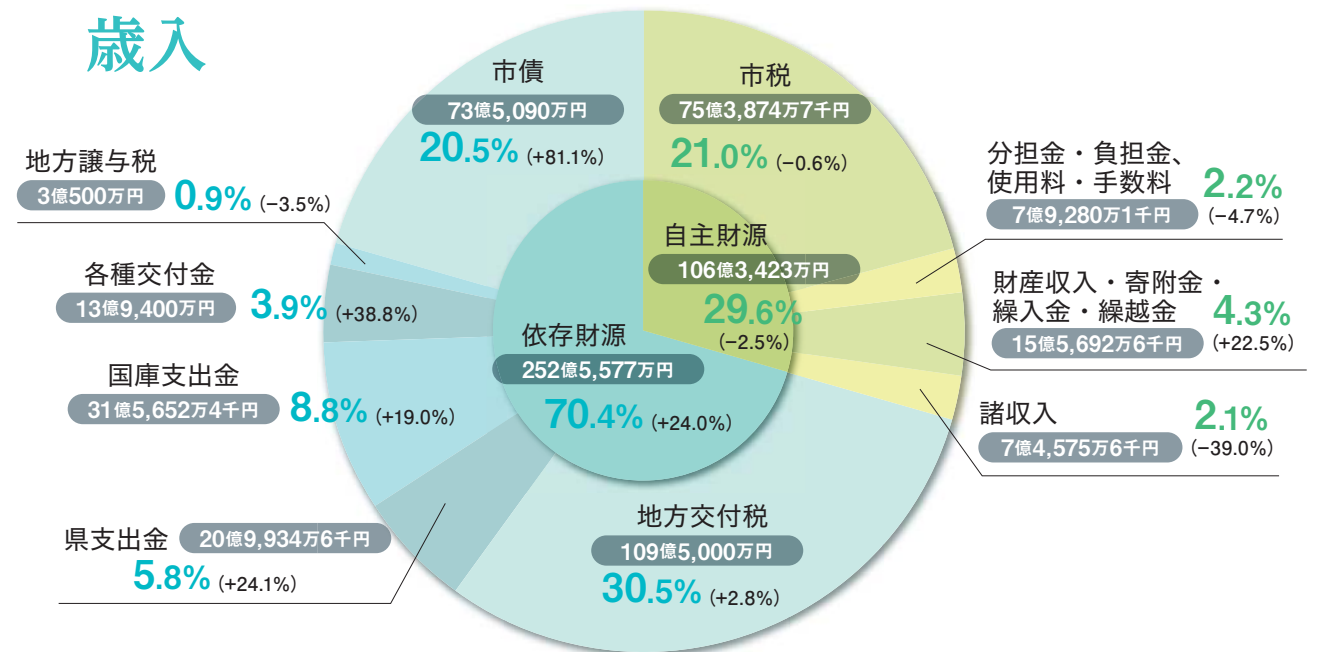
『強く やさしく 楽しい 田園都市みとよ』を旗印に、本年度も市民の皆さんと共に心豊かなまちづくりに努めてまいります。

市民の皆さんの一層のご理解とご協力を重ねてお願い申し上げます。平成27年度に向けた私の施政に対する方針いたします。

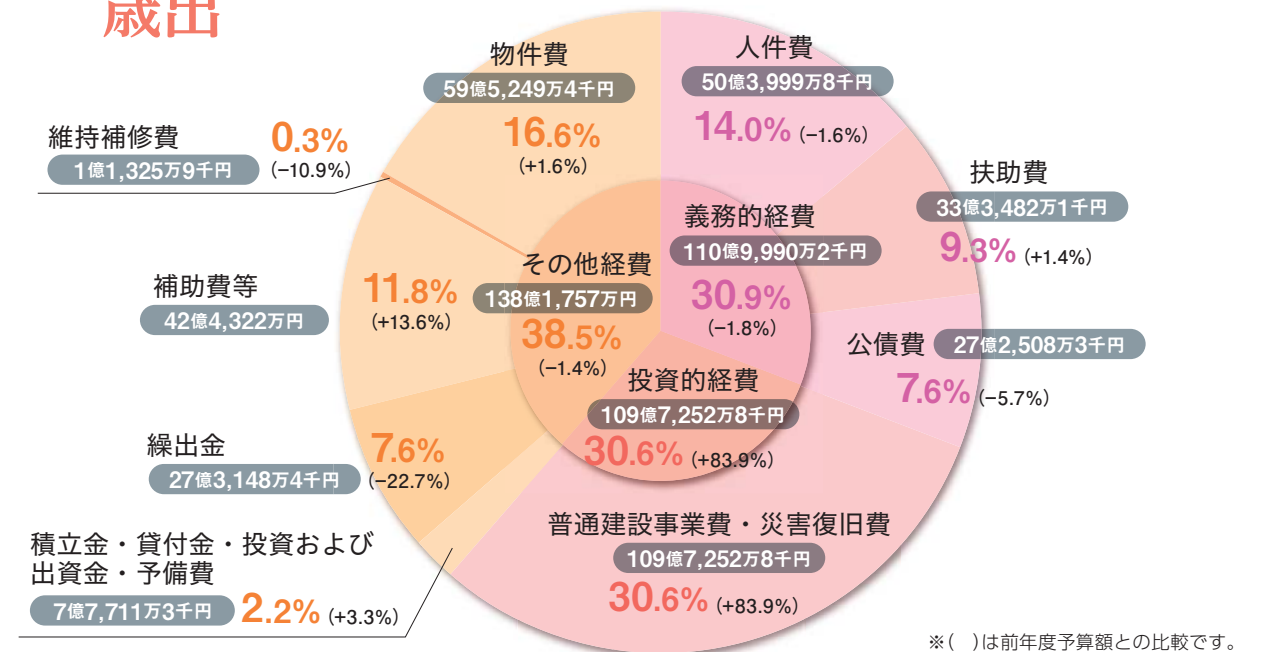
平成27年度予算

一般会計は対前年度比14.7%増の358億9,000万円

歳入



歳出



※()は前年度予算額との比較です。

用語解説

【歳入】

自主財源：市が自主的に収入できる財源（市税、使用料、財産収入など）

依存財源：国や県から交付されたり、割り当てられたりする財源（地方交付税、国庫支出金、県支出金など）

【歳出】

義務的経費：その支出が義務づけられ、任意に節約ができない経費（公債費、人件費、扶助費）

投資的経費：道路や施設などの整備に使う経費（普通建設事業費、災害復旧費）

その他経費：上記以外の経費（物件費、補助費等、積立金など）

特別会計

単位：千円

会計名	平成27年度 当初予算額	平成26年度 当初予算額
国民健康保険事業特別会計	10,200,000	8,714,000
国民健康保険診療所事業特別会計	165,000	190,000
後期高齢者医療事業特別会計	922,000	1,858,000
介護保険事業特別会計	7,350,000	7,220,000
介護サービス事業特別会計	106,000	101,000
集落排水事業特別会計	207,000	161,000
浄化槽整備推進事業特別会計	231,000	226,000
港湾整備事業特別会計	20,000	20,000
合計	19,201,000	18,490,000

企業会計

単位：千円

会計名	平成27年度 当初予算額	平成26年度 当初予算額
水道事業会計	2,408,516	2,214,149
病院事業会計 「永康病院・西香川病院」	1,840,048	1,829,366
合計	4,248,564	4,043,515

合併特例債を 大型建設事業に活用

27年度の一般会計予算総額は、前年度比46億1,000万円、率にして14.7%増の358億9,000万円を計上しました。三豊市では、「三豊かさ」をみんので育む市民力都市・三豊」を

実現するため、三豊市新総合計画で6つの分野ごとの基本目標を設定し、施策に取り組んでいます。予算編成に当たっては、市新総合計画第7期実施計画に掲げる事業を実施するため、大型建設事業に合併特例債を有効に活用し、積極的かつ効果的な財源の配分を行いました。

歳入

歳入予算のうち、使い道が決められていない一般財源として、主なものでは市税75億3,874万7千円（前年度比▲0.6%）、地方交付税109億5,000万円（前年度比+2.8%）、地方譲与税・交付金16億9,900万円（前年度比+28.7%）などを計上しています。

また、市の「貯金」である基金からの繰入金は、14億1,469万1千円（前年度比+23.0%）を計上しています。

歳出

歳出予算のうち義務的経費では、人件費は50億3,999万8千円（前年度比▲1.6%）、公債費は27億2,508万3千円（前年度比▲5.7%）を計上しています。職員

の定員適正化計画の推進や、「借金」である市債を抑制してきたことにより前年度比減となっています。

また、扶助費については33億3,482万1千円（前年度比+1.4%）で、生活保護扶助費の増額などにより前年度比増となっていますが、義務的経費全体では、前年度比減となっています。

投資的経費は109億7,252万8千円（前年度比+83.9%）で、前述の財田地区・山本地区新設小学校建設事業や学校給食センター等整備事業などの大型建設事業のほか、中学校施設の非構造部材の耐震化、市道の整備など、将来世代にとっても利用できる設備や施設の整備を行うため、大幅に増額となっています。

その他の経費では、補助費や物件費などについては、後期高齢者医療広域連合負担金の増額や、施設の解体工事費の増額などにより、それぞれ増額が見込まれています。後期高齢者事業特別会計繰出金の減額などにより、全体では、前年度比減となっています。

▼問い合わせ
企画財政課

☎ 73・3010